

令和6年度 第6回崇化館地域会議 会議録

■日 時 令和6年10月15日（火）午後6時30分～午後8時00分

■場 所 崇化館交流館 4階 第2会議室

■出席者 <委 員> 板倉 しをり 伊藤 貴史 稲本 泰孝 井上 眞一
太田 眞由美 木村 友浩 柘植 伸夫 戸田 博基
永井 靖美 服部 啓二 藤井 康博 本多 鋭孝
松山 純成 山内 由美子
<欠 席> 永山 慎二 林本 基 藤村 匡泰
<交流館> 近藤かおる（崇化館交流館長）
<市役所> 尾形 洋（防災対策課副課長） 小出博文（防災対策課担当長）
<事務局> 杉浦 智文（拳母事務所長）
田嶋 優俊（地域支援課担当長） 青木 剛（地域支援課主任主）

■次 第

- 1 開会 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 課題候補選定の論点整理
 - （1）主要な意見について
水害対策に関する前回の意見
 - （2）防災対策課との意見交換
水害対策等に関する意見交換
- 4 連絡事項

■議 事（要約）

3 課題候補選定の論点整理

- （1）課題の選定に関する議論では水害対策に関する意見が多数あり、今後の論点整理として水害対策について集中的な議論を行うこととし、第5回地域会議で出された意見を確認した。
- （2）崇化館という地域特性から水害に対する不安や市の防災についての疑問といった発言が多数あったので、防災対策課から担当者の出席を求め意見交換を行った。内容は別紙のとおり。

4 連絡事項

- ・本日の会議は、今後の論点整理のため今までの議論で関心の高かった水害対策について掘下げを行った。今後は水害対策以外の意見も含め議論をお願いする。
- ・防災フェア内容紹介（11月30日午前9時から崇化館交流館にて開催予定）
本年度地域課題解決事業としてコミュニティ会議が主催する防災フェアの紹介
主な内容は、地域の防災の取組や現状の紹介、愛知工業大学横田先生の講演
崇化館中学校生徒等の補助によるクイズ、乳幼児向けのミルク、防災ランチ
（募金制）の試食等

【主な意見】

会長 課題の選定について、第2回地域会議グループ討議における長所、短所の洗出し以降、会議の間では度々、水害対策に関するご意見をいただいているので一度、市の担当課のお考えをお聞きすることとし意見交換の機会を設けた。

委員 バスターミナルに集まってバスで避難する方法が考えられ実際に京都府の八幡市では市がバスを手配するという事例もある。ハザードマップで想定される雨量では徒歩で避難する人は少ないと考えられるが市はバス利用の考えはあるのか。

回答 現状では豊田市はバス会社を活用する協定は持っておらず、協定という動きもない。市が実施するとなれば崇化館地域だけでなく市内全域について考える必要がありすぐにどうするとは言えないが貴重な意見として共有させていただく。

委員 バス利用は市内全域で考える必要があるという話は理解した。ハザードマップに対する市民の危機感が低いと感じるが、防災対策課は市民の危機感についてリサーチしたことはあるか。

回答 防災対策課として根拠となるような数値は持っていないが、市民意識調査では結果は出ている。

委員 誰が最初に動くかという問題だが、市は市民が騒ぎ出す前に積極的に市民に伝えればよいと思う。個別の対策は後から議論すべきことで、もっと意識付けというか市民が危険と感じるようになれば共働で何がやれるのかという議論になる。

委員 昨年6月の豪雨では42万人に避難指示があって200人程度しか避難していない。河川水位や雨量等ある程度データに基づく判断なら良いが危機意識が全くなくて避難しないというのは問題だ。

回答 市では防災行政無線や緊急メール、ひまわりアプリ等で情報発信をしている。避難行動についてはマイタイムラインの活用とか、子どもから家庭へということで小中学校を対象に啓発活動を行ってさらなる周知を進めていきたいと考えている。

委員 数年前に開設された避難所を確認しに行ったとき、係の人に「ここに来て毛布と水しかないからその付近なら逃げなくてもいいではないですか」と言われた。マンションの1階に住んでいた時は「4階くらいに上がればいい」と言われたが3年くらい前には「4階くらいの人ちょっと危ない」と言われた。自分の地区では個々に付き添って独居老人を避難させたが、その人の住居周辺には水がこなくてまた迎えに行かなきゃならないからどうしたものかと考えさせられる。

回答 避難指示は40万人全てに動いてくださいと言っているわけではないということでは理解していただきたい。危険な所にいる人は避難してくださいという趣旨になっていて市内の水害に関する避難想定者数としては10万人程度を避難対象としているが命を守るために早めに出している。

委員 指示を出す範囲の条件が違うということが解っているなら本当に危険だと思っている人たちのところに先に出してその人たちが動くという動きも回らされて動くということがあるので全域という出し方は問題があったと思う。

- 回答 雨の場合は原則河川流域単位で出している。昨年6月は市内全域でかなり降っていたという状況で個々の河川単位で出そうとしても短時間で続けて出せるものではなく避難所開設にも準備が必要であり個々の河川が判断基準に達するまで待つてバラバラに出すのではなく逃げ遅れを避けるために早めに出している。
- 委員 バス利用が具体化できない課題はなにか。市役所が検討した経緯があるのか。昔、樹木町の辺りは建物を立てられないと言われていて住民は高台へ移転した過去があるが今は建物も多く川沿い農地の関係者は市がしっかり対策しているはずだから大丈夫だと言っているが根拠はあるのか。
- 回答 バス利用の議論を行った認識はない。市の河川整備は現在の千年確率に対応しているという状況にはないと認識している。
- 委員 二区西部の区民は市役所に避難したいと言っている。
- 回答 原則、水平避難を推奨している。提言に対しては市の施設が使えるよう調整をしている。具体的な期日は申し上げられないが市役所や参合館の利用について調整している。
- 委員 自治区長の立場からは浸水しない高めの公園に備蓄倉庫を整備していただいてそこに備蓄をしていただきたい。実際に避難できそうな都市公園の利用を考えてトイレ等の整備をするべきでトイレの数で避難者が制限される。
- 回答 原則、避難所はマンホールトイレの利用を考慮しており補完的にトイレカー等の配備があるが足りない部分もあり他の自治体と連携していく。
- 委員 平芝自治区でいえば越水してから1時間以内くらいに避難すればいいと考えているが、市の決壊シミュレーションでは久澄橋と新井橋の2カ所で試すと似たような結果になり越水してから1時間位が目途と思われるが精度には不安もある。
- 委員 昨年の6月大雨では避難所ではなく高台の親戚のマンションへ避難している人もいて危機感を持っている人は避難する。だから広域に一斉指示するのではなく危険なエリアから順次地域を区切って避難指示を出すべきで空振りが続けばどうせ大丈夫と甘く見るような正常性バイアスに陥る危険がある。
矢作川は工事をしても河川水位は1.4m程度しか下がらず明治用水の水利権の問題から河床を下げることも難しいという状況で現状は逃げるしかないけれど根本的な解決策は国が考えることだが市は国への要望は行って欲しい。
- 委員 昨年の6月2日は前日の夕方に翌日の小中学校全校の休校を決定した。教育委員会だけでは情報が掴めないと思うがどういう経緯で決定をしているのか、今後どういう体制でいくのかということをお聞きしたい。
- 回答 気象情報の収集は防災対策課が行なっている。気象防災アドバイザーを雇いその方から東海豪雨に似た気圧配置になるとの意見を聞いた。市の体制は各部を対策部として状況に応じて人員を招集し情報を共有し東海豪雨級になる可能性があつて山間地域のスクールバス運行や送迎の問題などを勘案し副部長級の議論により判断した。学校は教育委員会の判断になるが必要な情報を共有する体制がある。
- 委員 昨年場合は朝から降っていたが、午後から降るであろうというような場合は途中で帰せない状況もあるのではないかと。小中学校が避難所になっていると子どもたちも居るというような状況では大混乱が予想される。そういう意味では空振りになってもいいので前日の午後のうちに判断を出してもらえると、親の都合も明

- 日休みにするとか判断できるのでそこは早めの判断で通知をしていただきたい。
- 委員 浸水ハザードマップは豊田市が危険だと思って作ったものではなくて水防法という法律ができて国の命令で作っただけではないか。地域会議でハザードマップ上危険だから対策を考えていかなければいけないとした時に共働相手であり提案相手は豊田市だけれど温度差を凄く感じる。市にもっと高い危機意識を持ってやっていかなければいけないという姿勢が見えれば、ここの会議での話はもっとスムーズに進んでいくと思う。自分たちが色々提案しても温度差が大きくてそんなことはできませんといった感じだと何をやっているのか分からなくなってしまう。
- 回答 そこまで温度差があるとは思っていないが東海豪雨の時は先に他のエリアが浸水したという例もある。しかしこの地域が決壊したら甚大な被害となることは間違いないで優先順位としては非常に高いが我々は市内全域を見なければいけないのでもやもやしているところがあってその姿勢が皆様方の危機感との温度差と感じられてしまうのかもしれない。そういう意味でも、地域を挙げてここは防災意識をしっかりと植え付けてということであれば、それはそれで現実的だと思う。
- 委員 出前講座はどのようなものがあるのか。
- 回答 マイタイムラインは水害に加え地震に対するものもある。また、避難所を図上で体験していただくものなどがある。
- 委員 高齢者向けに実施しても危機感を持ってくれるか疑問である。
- 回答 内容は基本的にはご依頼の要望に沿って実施している。
- 委員 出前講座はどのくらいあるのか。
- 回答 防災関係は年間160件くらいの予定。
- 委員 防災関係の種類はいくつか。
- 回答 4種類。災害に備えるという大きなものは講話で開催したり、実際の避難所設営体験は段ボール間仕切り体験等多様な形でやらせていただいている。
- 委員 防災フェア講師の愛工大の横田先生は著名な方だが、例えば地元の大学のこういった優秀な人材との連携を考えてはどうか、大学には受託研究や自治体との共同研究もあるし、ここで話をしている皆さんは地域のことは詳しいかもしれないが専門的知見という観点から言えばやはり有識者の人、そういったことを学んでいる学生の方が多分詳しいと思う。なにが弱いとか学生はヒヤリングもしてくれるがそういう手法は考えたことがあるのか。
- 回答 愛知工業大学とは年間を通じて連携させていただいている。学生の活用では出前講座で連携させていただいている。かなり技術もあり、ベンチャー企業も入っている所以说ったところの協力もいただきながら小中学校での出前講座も工夫しながら実施している。専門の方からの知見というところは今後もいただきながら進めていければと考えている。
- 委員 これもひとつの地域づくりだと思う。学生もそういうことが好きだと思うし、私立大学の観点からも自治体との共同研究は国からの補助金の対象になるので結構門戸を開いているところがあると思うので活用してみてもいいかなと思う。
- 委員 豊田市が政治的に県や国を動かしてダムを造ってもらうという話だと我々の話ではない。しかしダムを造ると決めてきていただいてもできるまでには30年とかかかるわけでその間は嫌でも逃げなければならない。そうするとやはり逃げる準

備はしておかないと大きな被害が出る。逃げるのだったらよいではないかと豊田市に言われては困るので根本的な対策をするということを考えていただかないといつまでたっても千年先も水が浸かりますよではいけない。やはりダムを一つ作ることによって状況は変わるし、国も防災省を作ると言っているくらいだからそういう要望を出していつてもらういい時期ではないかと思う。

委員 ダム建設は架空の話ではなくて国交省には過去に上矢作ダム計画があった。その辺も考えてこの会議では避難ということをやらざるを得ない。ただし、その中で政治的要望の必要性も伝えなければいけないと思う。

会長 次回の議論の説明

今回は水害について皆さんの疑問について市の方から分かりやすいように説明をしていただいた。平芝では夜間に水害マイタイムライン講座を実施したが、地震に対する講座を行いたいと考えている。能登半島地震では家屋の倒壊による火災被害がひどく、この地域でも耐震診断を進め危険個所の把握に努めるなど市の進める対策は積極的に取り組んでいく。

今回で一応水害に対する議論は一旦置いておいて次回からは皆さんの肯定感に繋がる議論を行いたいと考えている。ご要望があれば会議の2週間前程度にご連絡いただければ対応したい。

以上

《今後の予定》

●令和6年度 第7回崇化館地域会議

日 時：令和6年11月19日（火）午後6時30分～

場 所：崇化館交流館 4階 第2会議室